



# 三内丸山通信

## 三内丸山遺跡の謎を解く

平成17年度遺跡報告会

3月18日、縄文時遊館を会場に平成17年度特別史跡三内丸山遺跡報告会を開催し、今年度の発掘調査報告、特別研究成果報告、特別講演が行われました。



報告会のようす

### 特別講演 世界の仮面・縄文の仮面

国立歴史民俗博物館教授 春成秀爾氏

仮面の種類には、顔に付ける「マスク」、首飾りなどとして身につける小さな「マスケット」、器物に付いた「マスコイド」がありますが、実際に顔に付けるものは少ないのです。「マスク」の条件は、軽い素材であること、呼吸がしやすいように目・口・鼻に十分な穴があげられていること

す。縄文時代後期以降では、マスクを付けた土偶や、マスクに付けられた土製の口・鼻・耳のパーツが見つかっていますが、中期以前のものはまだ見つかっていません。三内丸山遺跡でも、今後仮面が発見される可能性がありますが、それは木の皮など、粘土以外の素材のものかもしれません。

### 特別研究 ウルシの存在と利用について

鈴木三男氏（東北大学植物園園長）を代表とする研究グループは、ウルシが太古に日本にきたのか、あるいは日本自生なのかという

謎を明らかにするため、調査や分析を行いました。その結果、日本のウルシには自生のものはないことがわかりました。また、遺跡出土の果実、花粉、材を調べたところ、数種類あるウルシ属の植物のうち各地の縄文遺跡で「ウルシ」の存在を確認することができました。

「漆塗り」とされるものが本場に漆製品かどうかを明らかにするため、三内丸山遺跡から発見された漆製品のいくつかを赤外線やX線で分析しました。その結果、腕輪などに塗られているのはウルシであることがわかりました。

### 特別研究

#### 台地北側斜面の捨て場の形成過程について

村本周三氏（総合研究大学院大学）は、第29次調査区で、北側の崖面などから炭化物を採り、炭素による年代測定を行いました。その結果、捨て場（遺物包含層）は縄文時代前期末葉・中期前葉・中期後葉の3つの段階にわかれ、前期末葉と中期前葉の間では、大規模で短期間の廃棄行為、中期後葉の間では小規模で継続的な廃棄行為が行われたことを明らかにしました。

### 世界文化遺産登録推進セミナーを開催

去る3月19日（日）、「青森県の縄文遺跡群」の世界文化遺産登録推進の気運を高めるため、勉強会を開催しました。講師は「石見銀山局長の仲野義文さんです。」

有志が結成し、世界遺産登録を民間の立場から支援しており、町単位での勉強会などを開催しています。仲野さんは、

「自然遺産と違って、文化遺産は人が関わらないと守っていけない。そうなる」と、地域のありかたが問題となってくる。世界遺産をめざすことをきっかけにして、あらためて自分たちで自分たちの地域を見つめ直すことができた。登録が叶

「めざす会」は、地元の世界文化遺産登録の可否が決定されることになっていきます。

わなくても、それだけで大きな収穫になった。「日本はどこに行っても同じ。その中で、文化遺産はその地域にしかない独特のもの。遠慮しないで世界遺産にふさわしいと思ったり、言ったりしていいし、地元の人たちがそう思っていないければ世界遺産登録は実現しない。」と語りかけました。約100人の参加者は、メモを取るなどして、熱心に耳を傾けていました。



幻想的な雪景色の中、2月11日(土)、12日(日)の2日間、「三内丸山冬祭り」を開催しました。

「めざせ！縄文博士！クイズラリー」は、遺跡内に設置したクイズに答え、全問正解者を「縄文博士」に認定するものです。難問をクリアし、縄文博士に認定されてガッツポーズで喜びを表現している子どもがいきました。「縄文土器復元体



6800点以上の土器にびっくり「土器<sup>2</sup>わく<sup>2</sup>探検隊」

験」では、遺跡から出土した本物の土器の復元に挑戦

## 豪雪のさんまるに集まれ!! 冬祭り

## イベント報告

2月・3月

していたいただきました。バラバラな土器に頭を悩ませながらも、組み上げた時には思わず歓声を上げる参加者がいました。「土器わく探検隊」では、普段は見ることもできない収蔵庫を見学しました。迫力ある土器の数々に参加者は驚いた様子でした。

この他にも、子供たちに人気の「大型滑り台」や「まが玉づくり教室」など、数々のイベントが行われ、賑わいました。

## 春になったら...縄文教室 予告

来年度も魅力的なメニューでお待ちしています。詳しいことは、5月頃にホームページ等でご案内する予定です。縄文時代の生活体験をしてみませんか。ご期待ください。

### (参考) 昨年度 縄文教室日程

コース	月日	時間	メニュー
1回コース	6/18(土)	午前10時から 正午まで	三内丸山遺跡探検
	10/22(土)	午前10時から 午後3時まで	石器作り
	11/12(土)	午前10時から 午後3時まで	レプリカ作り
2回コース	7/23(土)	午前10時から 午後3時まで	土偶作り1
	8/27(土)	午前10時から 午後3時まで	土偶作り2
	10/1(土)	午前10時から 午後3時まで	海の考古学1
	10/2(日)	午前10時から 午後3時まで	海の考古学2
	10/15(土)	午前10時から 午後3時まで	編みカゴ作り1
4回コース	12/3(土)	午後3時から	編みカゴ作り2
	6/11(土)	午前10時から 午後3時まで	土器作り1
	7/9(土)	午前10時から 午後3時まで	土器作り2
	9/10(土)	午前10時から 午後3時まで	土器作り3
	9/11(日)	午前10時から 正午まで	土器作り4



作った釣り針で魚をつる「海の考古学」



大人も夢中に...「編みカゴ作り」

## 最新情報展

### 第3回

3月18日から、展示室内の企画展示室で平成17年度の発掘調査成果の展示が始まりました。

調査によって得られた成果をまとめたパネル、写真、出土した土器・石器、土偶などを多数展示しています。

また、この調査区では過去に6回調査を行っていますので、それまでの調査成果・遺物もあわせて展示しています。掘立柱建物跡の木柱が良好な状態で残っており、木柱から高精度の年代測定が行われている調査区の面白さも紹介しています。

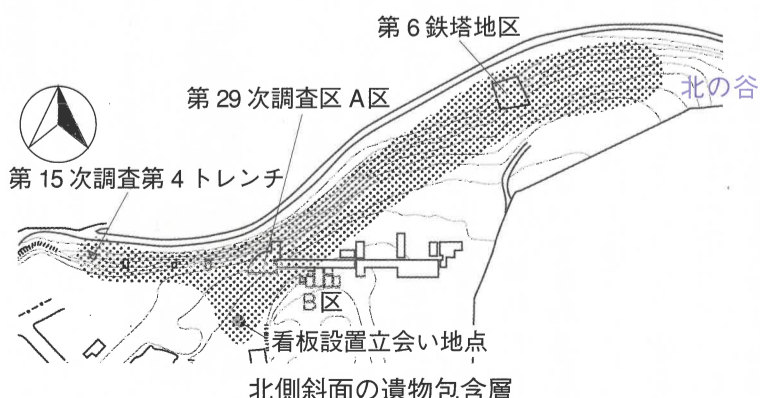
## 遺跡公開10周年記念・10年間の発掘調査から③

## 台地北西端につくられた捨て場

遺跡は低いテーブルのような台地の上であり、その北側は、今も昔も沖館川が流れ、落差5〜8mほどの急斜面になっています。

この斜面では、縄文時代の前期から中期にわたる巨大な捨て場(遺物包含層)が北の谷近くから西側に向かい、幅約200m以上も続いていることがわかりました。縄文時代の前期から中期にかけての土砂や土器・食べかすなどが大量に捨て

られていて、土の厚さが3.5m以上あるところもあります。特に前期末葉から中期初頭にかけて短期間にたくさん捨てられたこともわかりました。斜面が埋まっただけでなく、捨て場からは、住居跡や掘立柱建物跡がみつかかり、柱の穴の中には、クリの柱が腐らずに残っていました。これらの建物が建てられたのは縄文時代中期後葉〜末葉と考えられます。



### 遺跡のご案内

#### ○開園時間

9〜19時(4〜10月)

ただし、「遺跡内展示室」、「展示遺構」の公開時間は、

#### ○ボランティアガイドの定時案内

1回目は9時15分より

その後は10時から1時間ごと

#### ○交通手段

青森市営バス

JR青森駅から

「運転免許センター行き」

三内丸山遺跡前で下車

4月から開園・開館時間を延長

しています。雪解けの遺跡へ春を探しにおでかけください。